

鼻の局所治療
後鼻漏の局所治療

吉川 衛*
Mamoru Yoshikawa

● Key Words ● 局所治療, 後鼻漏, 慢性副鼻腔炎, アレルギー性鼻炎

はじめに

日常診療で頻繁に遭遇する後鼻漏という症状は、一般的には鼻汁がのどに降りる状態のことをさす。しかしながら、鼻汁以外の液体（唾液、胃酸逆流など）がその原因となる場合や、固体（腫瘍、後鼻孔ポリープなど）による違和感だけでなく、客観的に現象が把握できない自覚症状のみの後鼻漏感も少なからず存在し、その評価は非常に難しい。後鼻漏や後鼻漏感の原因となりうる疾患を表1に示す¹⁾。

後鼻漏について

鼻腔や副鼻腔に豊富に存在する鼻腺や杯細胞などから、健常人でも1日に数リットルもの分泌液が産生され、その一部は粘液線毛輸送機能により咽頭腔へ流れている。これを後鼻漏として自覚することはないが、何らかの原因によって鼻汁の分泌量や粘性が亢進したり、粘液線毛輸送機能が低下したりすると症状が生じる。その原因となる疾患としては、急性鼻炎（かぜ症候群）、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎（急性、慢性）、上咽頭炎などが挙げられるが、その中でも慢性副鼻腔炎が最も多く45%、次にアレルギー疾患が23%であったと報告されている²⁾。一方で、アレルギー性鼻炎が80%と最も多かったという報告もあり³⁾、慢性副鼻腔炎とアレルギー性鼻炎が後鼻漏の主要因と考えられる。

慢性副鼻腔炎における鼻汁は、生理的な鼻汁より粘弾性が高くなるため、それに伴い後鼻孔から咽頭へと垂れ下がる。また、急性鼻炎の初期症状

表1 後鼻漏・後鼻漏感の原因疾患（文献1より引用）

1. 鼻副鼻腔に起因するもの
 - 1) 炎症
 - 急性副鼻腔炎
 - 慢性副鼻腔炎
 - 急性鼻炎（かぜ症候群）
 - アレルギー性鼻炎
 - 血管運動性鼻炎
 - 鼻ポリープ
 - 2) 鼻腔形態異常
 - 下鼻甲介後端肥厚
 - 鼻中隔結節
 - 鼻中隔彎曲症
 - 3) 腫瘍
 - 鼻副鼻腔腫瘍
 - 鼻咽腔血管線維腫
 - 4) 異物
 - 5) 外傷（髄液漏）
2. 咽頭に起因するもの
 - 1) 炎症
 - 鼻咽頭炎
 - Tornwald 症候群
 - 2) 腫瘍
 - 上咽頭腫瘍
 - 中咽頭腫瘍
 - 3) 機能不全
3. 中耳に起因するもの
 - 外傷（髄液漏）
4. 心因性

やアレルギー性鼻炎では水様性鼻漏が生じ、咽頭への鼻汁の流入が増えるだけでなく、下鼻甲介粘膜の腫脹による鼻閉を生じると擤鼻しにくくなり後鼻漏が増悪する。

このような後鼻漏に対する治療は、原因となる疾患の治療に準ずる。慢性副鼻腔炎では、薬物療法などの保存的治療と副鼻腔自然口の狭窄や閉鎖を改善し、換気や貯留液の排泄をつける手術的治



図1 ネブライザー療法
鼻処置を行い、自然口を開大したうえでネブライザー療法を行うと、副鼻腔内への薬液到達量が増加する。



図2 鼻洗浄器
さまざまな鼻洗浄器がインターネットやドラッグストアで販売されているが、効率的に鼻洗浄を行うためにはある程度の水圧が必要なので、図のようなポンプ式が望ましい。

療がある。代表的な薬物治療としては、マクロライド療法と呼ばれる14員環マクロライド系抗菌薬を少量長期投与する方法がある。この治療の有効性は細菌に対する抗菌作用ではなく、抗炎症作用、免疫調節作用、粘液分泌抑制作用、バイオフィーム形成抑制作用などによると考えられている。

その他の治療薬としては、副鼻腔貯留液の排泄を促進する消炎酵素薬や、粘液溶解薬なども有用である。また、軽度病変例や急性増悪時には鼻処置（中鼻道処置や鼻汁の除去）を行った上でネブライザー療法を行うのが効果的である（図1）。それでも改善しない場合、手術療法として内視鏡下鼻内副鼻腔手術（endoscopic sinus surgery: ESS）が行われる。

アレルギー性鼻炎では、抗原の除去と回避を基本とし、薬物療法、アレルギー免疫療法、手術療法を適宜選択する。薬物療法は、鼻噴霧用ステロイドと第2世代抗ヒスタミン薬の内服が基本となる。その他、遊離抑制薬、Th2 サイトカイン阻害薬、抗ロイコトリエン薬（抗LTs薬）、抗プロスタグランジンD₂・トロンボキサンA₂薬（抗PGD₂・TXA₂薬）、抗ヒスタミン薬・血管収縮薬配合剤を使用し、特に鼻閉が強い場合は点鼻用血管収縮薬を治療開始時にのみ使用する。

後鼻漏感について

後鼻漏感はいくまでも患者個人の感覚なので、客観的な評価は困難である。その代表的な病態としては加齢変化が挙げられる。鼻粘膜の萎縮や粘膜固有層の線維化による鼻腔抵抗や加温加湿機能の低下に伴う知覚過敏、あるいは鼻汁分泌を抑制する自律神経調節機能や粘液線毛輸送機能の低下が原因となり、自覚症状としての後鼻漏感を引き起こす。その他、喉頭アレルギーや胃食道逆流症なども、客観的な所見の乏しい後鼻漏感を訴えることがあり鑑別が必要である。また、心因的な要因やストレスが原因となることも多くあり、適切な診療科への紹介など、患者背景への対応も重要である。

後鼻漏および後鼻漏感に対する局所治療

後鼻漏および後鼻漏感に対する局所治療としては、前述した鼻処置やネブライザー療法などの他、温熱療法や鼻洗浄が挙げられる。

温熱療法は、約43℃に加熱した蒸気を吸入し、鼻腔や咽頭を温める治療法である。簡便な方法として蒸しタオルを利用することも可能だが、市販されているスチーム吸入器を使用する方が温度調節も容易である。温熱療法は『鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版』でも安全な治療と推奨されており、アレルギー性鼻炎への効果がよく知ら

* 東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科学講座
〔〒153-8515 東京都目黒区大橋 2-22-36〕

れているが^{4,5)}、鼻粘膜温度の低下が原因となる老人性鼻漏に対する効果も指摘されている⁶⁾。

食塩水による鼻洗浄は、高張と等張のどちらが有効かについての議論はあるものの、アメリカの診療ガイドラインでは慢性副鼻腔炎の病態の進行を抑制する二次予防としても推奨されている⁷⁾。鼻洗浄は、粘液やアレルゲンの除去だけでなく、線毛機能の改善や粘膜の保護においても有益とされている⁸⁾。その結果として、後鼻漏の改善もある程度期待されるが、鼻腔を効率的に洗浄するには鼻洗浄器を使用することが望ましい (図2)。

おわりに

局所治療だけで後鼻漏や後鼻漏感に対する治療が完結することはないが、薬物療法や手術療法の補助として効果が期待できる。また、完治はしなくても、患者の自覚症状の緩和や病態の制御のためには、局所治療の継続が有用であることが多い。

* * *

文献

- 1) 洲崎春海：【咳を主訴とする患者のみかた-的確な診断と治療のために】各論 鼻副鼻腔疾患に伴う咳、診断と治療 99：2085-2093, 2011.
- 2) 中下陽介, 石野岳志, 竹野幸夫, 他：アレルギー性鼻炎による後鼻漏治療の臨床的検討. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 28：123-124, 2010.
- 3) 阪本浩一：慢性咳嗽研究の最先端 基礎から臨床へ耳鼻咽喉科外来における慢性咳嗽の臨床-喉頭アレルギー・後鼻漏症候群を中心に-. 日食会報 63：99-101, 2012.
- 4) 鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会：鼻アレルギー診療ガイドライン-通年性鼻炎と花粉症-2016年版, ライフサイエンス, 東京, 2015.
- 5) 松根彰志：温熱エアロゾル療法. 耳展 50 (補3)：129-132, 2007.
- 6) 市村恵一：【高齢化社会と耳鼻咽喉科】老人性疾患の予防と対策 老人性鼻漏. JOHNS 28：1352-1356, 2013.
- 7) Rosenfeld RM, Andes D, Bhattacharyya N, et al：Clinical practice guideline：adult sinusitis. Otolaryngol Head Neck Surg 137：s1-31, 2007.
- 8) Harvey R, Hannan SA, Badia L, et al：Nasal saline irrigations for the symptoms of chronic rhinosinusitis. Cochrane Database Syst Rev 3：CD006394, 2007.

JOHNS

Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery

2020 June
Vol. 36 No. 6

6

特集 鼻とのどの局所治療

【総論】

局所治療の意義と種類
鼻内で使用できる外用薬
口腔・咽頭内で使用できる外用薬
ネブライザーについて
鼻からの近未来型ワクチン

【鼻の局所治療】

鼻副鼻腔炎の局所治療
アレルギー性鼻炎の局所治療
萎縮性鼻炎, 肥厚性鼻炎の局所治療
嗅覚障害の局所治療
鼻出血の局所治療

後鼻漏の局所治療

小児鼻漏の局所治療
歯性上顎洞炎の局所治療

【のどの局所治療】

急性咽頭炎, 急性扁桃炎の局所治療
口内炎, 舌炎, 舌苔の局所治療
口腔・咽頭の真菌症の局所治療
声帯ポリープ, 声帯結節, 慢性声帯炎の局所治療
口腔乾燥症の局所治療
咽喉頭異常感症の局所治療
舌痛症と味覚異常の局所治療
上咽頭炎の局所治療-BスポットからEATへ
頭頸部癌患者の口腔ケア
高齢者の口腔ケア
口臭に対する局所治療

